



伊奈町長 大島 清氏

町長のメッセージ

伊奈町は、東北・上越新幹線の分岐点に位置し、町名の由来となった伊奈備前守忠次い な び ぜん の か み た だ つ ぐが江戸時代に、関東一円の治水・新田開発の大事業を行うために陣屋を構えた地です。豊かな自然に囲まれながら、首都中心部から40km圏内という地理的条件にも恵まれ、都市基盤整備などによる住環境の向上により、若い人々が集う活気ある町として発展を続けています。今後も誰もがいきいきと元気に暮らせる「日本一住んでみたいまち」の実現に向けて取り組んでまいります。

はじめに

伊奈町は埼玉県の中南部、東京都心から40km圏に位置しており、北を桶川市、西を上尾市、東を蓮田市に接している。町域は、東西2.5 km、南北7.5kmで、面積は14.79km²、人口はおよそ4万5千人である。埼玉新都市交通伊奈線「ニューシャトル」が町の中を縦貫しており、町内の5つの駅を利用して大宮駅へ手軽にアクセスすることができる。道路についても、東北自動車道・蓮田スマートICや圏央道・白岡菖蒲ICなどを身近に利用できることから、交通の利便性が非常に高い。

かつては米作などを中心とした農村地帯だったが、新幹線の開通を契機に急速に都市化が進んだ。近年は人口の伸びが緩やかになってきたが、今日でも若い世代の多い活気あふれるまちである。2020年に町制施行から50年の節目の年を迎え、昨年には、町を挙げて町制施行50周年記念式典を開催した。



伊奈町オリジナル品種のバラ「伊奈の月」

バラのまち伊奈町

「町制施行記念公園のバラ園」は、約1.2haの敷地の中におよそ400種5,000株のバラが植栽されており、これらのなかには大輪の深紅の花を咲かせる「イナローズ」や、ピンクが鮮やかな「イナ姫」、花の中心が美しい黄色のバラ「伊奈の月」といった、町オリジナルの品種も含まれている。春と秋の開花期には、色とりどりのバラが絢爛豪華に咲き誇り、バリアフリーになっている園内を、町の内外から集まった人々が思い思いに散策する光景がみられる。

伊奈町は、バラを町の花に制定しており、「バラのまち伊奈町」として、街中にもバラを増やしていくため、植栽を行うほか、苗の配布や栽培講習会を実施している。

「バラのまち」を積極的に発信するために伊奈町は、2022年5月に、「ばら制定都市会議(ばらサミット)」に加盟した。ばらサミットは、バラを市町村の花に制定している全国29の地方公共団体で構成されており、町は埼玉県内で唯一の加盟都市となった。2022年は大阪府の岸和田市で開催され、会場内に伊奈町オリジナル品種「伊奈の月」の植樹を行い、「バラのまち伊奈町」をアピールした。今後もバラに関する情報交換や技術交流などを通して、伊奈町の魅力を全国にPRする狙いだ。

また、バラによる相互交流事業として、伊奈町・毛呂山町・川島町の3町による「埼玉バラハーモニー」事業を実施している。

伊奈町概要

人口(2022年8月1日現在)	45,217人
世帯数(同上)	19,340世帯
平均年齢(2022年1月1日現在)	45.0歳
面積	14.79km ²
製造業事業所数(工業統計)	88所
製造品出荷額等(同上)	936.8億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	214店
商品販売額(同上)	924.9億円
公共下水道普及率	75.5%
舗装率	81.5%

資料:「令和3年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- 埼玉新都市交通伊奈線「ニューシャトル」
丸山駅、志久駅、伊奈中央駅、羽貫駅、内宿駅
- 東北自動車道 蓮田スマートICから町役場まで約6km
圏央道 白岡菖蒲ICから町役場まで約7km

❁ 町名の由来となった伊奈備前守忠次

伊奈町の名は、江戸時代、徳川家康に仕えた伊奈備前守忠次に由来する。忠次は、武蔵国足立郡小室郷(現在の伊奈町小室)の丸山に陣屋を築き、江戸幕府の代官頭として、関八州の天領(幕府直轄領)を治めた。治水灌漑工事や検地、新田開発などに手腕を発揮し、関東一円の発展の礎を築いたことでその名が知られている。

町は、2018年に忠次をたたえる「忠次公レキシまつり」をスタートさせた。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2021年は規模を縮小した形での開催となったが、芋ほり体験やチャンバラ用のオリジナル刀作り、侍缶バッジ作り、発掘調査現地説明会といった多彩なプログラムを、家族連れをはじめとする多くの参加者たちが楽しんだ。町はこれからも伊奈氏ゆかりの商品開発を行うなど、地域の観光資源として一層の活用を図っていく。

忠次の後を受け継いだ次男・忠治は現在の埼玉県川口市赤山に領地を与えられ、ここに陣屋を構えて常陸国谷原(現在の茨城県つくばみらい市。2006年に旧伊奈町と旧谷和原村が合併して誕生)などの新田開発などを行った。こうした縁もあり、2021年10月、伊奈町は、川口市・つくばみらい市とともに「伊奈氏ゆかりの地」歴史・文化的交流に関する協定を締結した。今後は、2市1町で、伊奈氏に係る調査・研究を行い、講演会・企画展などを開催して、相互の文化振興・地域活性化を図っていく。

❁ DX推進・新庁舎整備室を新設

現在の町の北庁舎は1973年、東庁舎は1983年に建設されたものだが、その後、人口が大幅に増加するなかで、設備の不足や老朽化、バリアフリーへの対応不足などの様々な課題が顕在化し、町民のニーズへの的確な対応が困難になってきていた。

新庁舎のあり方についての検討を進めてきた町は、2021年7月に伊奈町役場新庁舎整備基本構想・基本計画書をまとめた。新庁舎の設計にあたっては、環境への配慮や、大規模な災害時における防災拠点としての機能に加えて、デジタル化への対応といった町民サービスの向上の視点も欠かせない。

町は2022年4月に「DX推進・新庁舎整備室」を新設した。DXの活用を推し進め、ペーパーレス化の推進などを通して、一層の住民サービス向上につなげていくことを狙いとして、この重要課題に総合的・集中的に取り組んでいる。(井上博夫)



忠次公レキシまつりの様子